

日蓮大聖人御書全集

だんおつぼうごへんじ

檀越某御返事

新版

1718

フ

1719

だんおつぼうごへんじ  
檀越某御返事

こうあんがんねん  
弘安元年 ('78) 4月11日 57歳  
がつ にち  
さい

おんふみ 承 そうら お  
御文うけたまわり候い了わんぬ。

にちれんるざい さきざき 災 かさ  
日蓮流罪して先々にわざわいども重なつて 候 に、また

何 もう そうろう  
そどうら ひと 摂

なにと申すことか 候 べきとはおもえども、人のそんぜん

とし 候 には不可思議のことの候えば、さか候わんずら

ん。もしその義候わば、用いて候わんには百千万億倍の

幸 こんど みたび そうろう ひやくせんまんおくばい  
にちれん ほけきよう

さいわいなり。今度ぞ三度になり 候。法華経も、よも日蓮

をばゆるき行者とはおおせじ。

緩 ぎょうじや  
仰 仰 仰

しゃか

たほう

じっぽう

しょぶつ

じゅせんがい

ごりしょう

こんど見果

せつせんどうじ

もう

そうちら

釈迦・多宝・十方の諸仏・地涌千界の御利生、今度みはて

候わん。あわれ、あわれ、さることの候えかし。雪山童子

あと 追 ふきようぼさつ み

そうちら

の跡をおい、不輕菩薩の身になり候わん。いたずらに  
やくびようにやおかされ候わんずらん、おいじににや死に

侵

そうちら

老

死

し

そうちら

候わんずらん。あらあさまし、あらあさまし。

ねが

ほけきよう

こくしゆ

怨

こんどしょうじ

離

そうちら

てんしょうだいじん

しおうはちまん

にちがつ

たいしゃく

ぼんてん

はなれ候わばや。天照太神・正八幡・日月・帝釈・梵天

とう

ふつぜん

おん 誓

こんどこうろ

そうちら

等の仏前の御ちかい、今度心み候わばや。

ことじと

そうちら

おのの

おんみ

事々さておき候いぬ。各々の御身のことは、これより申

計

しはからうべし。さておわること、法華経を十二時に行  
たも そうろう

せさせ給うにては 候らめ。あなかしこ、あなかしこ。

おん 富仕

ほけきょう 思

御みやづかいを法華経とおぼしめせ。「一切世間の治生

さんぎょう みなじつそう

あいいはい

産業は、皆実相と相違背せず」とは、これなり。

返

おんふみ こころ 思

かえすがえす、御文の心こそおもいやられ候え。恐々

きんげん 謹言。

しがつじゅういちにち

四月十一日

にちれん

日蓮

かおう

花押